

学研高山地区及び周辺地域 魅力あっぷ通信

R7. 4
Vol. 2

この通信は、学研高山地区及び周辺地域の価値向上に向けた取り組みについての内容をお知らせするものです。

発行：生駒市学研推進課

この地域の魅力向上に向け、さらに深く掘り下げました。 ～「場」「機能」は誰にとってどう良くなるのか？～

このワークショップは学研高山地区及び周辺地域を含めた高山地区全体を暮らしやすく魅力あるエリアにしていくため、第1回のワークショップでは高山地区及び周辺地域の魅力と、あったらいいなと思う「場」や「機能」について話し合いました。

第2回となる今回は、第1回で意見が出た「場」や「機能」があることで何が良くなるのか。また、それは誰にとってメリットがあり、そのエリアにどのように結びついて新たな価値が生まれるかについて意見交換を行いました。今回も、前回に引き続き高山地区周辺地域の関係者の方々にお集まりいただき、新たなメンバーも加えて意見交換会を行いました。

【日程】

令和7年3月10日(月)

【場所】

奈良先端科学技術大学院大学

【アドバイザー】

奈良県立大学 教授 佐藤 由美 氏

【ファシリテータ】

新産業文化創出研究所 廣常 啓一 氏

【記録・イラストレーター】

スタジオポコ 吉田 友子 氏

主催：生駒市、奈良先端科学技術大学院大学

当日の様子

4つのテーブルに分かれて意見交換を行いました。前回の記録をもとに振り返りを行ったあと、佐藤由美教授より今回のワークショップの視点についてコメントをいただき、意見交換を開始しました。

テーブルごとに自己紹介を行い、まずは第1回で出た「場」や「機能」があることで誰にとってどのように良くなるかについて意見交換を行い、テーブルごとに発表しました。その後、「場」や「機能」は誰がどのように関わっていくかについて話し合い、テーブルごとに発表しました。最後に、佐藤由美教授から総括コメントをいただきました。



学研高山地区第2工区地権者、奈良先端大(学生、留学生、職員)、高山地区事業者、農業関係者、地域活動団体のみなさま(合計23名)に参加していただき、4つのグループに分かれて意見交換を行いました。

★ 意見交換のポイント (アドバイザー 佐藤 由美 教授より)

前回は、高山地区と周辺地域で様々な背景をもつ人同士でこのエリアの魅力に関する認識を高め合うことができました。従来型のまちづくりでは、ディベロッパーなどが土地を買って大規模なまちづくりを行うことが多かったですが、これからは、**地域の人たちが自分たちのまちの拠点を作っていくという意識**をもち、**誰のために、どんな関わりによって良い化学反応を起こせるか**を考えていく必要があります。自分ならこんなことをやってみたいというように、**まちづくりに参加する当事者**として意見交換を行っていきましょう。



「場」「機能」は誰にとってどんなメリットがある？

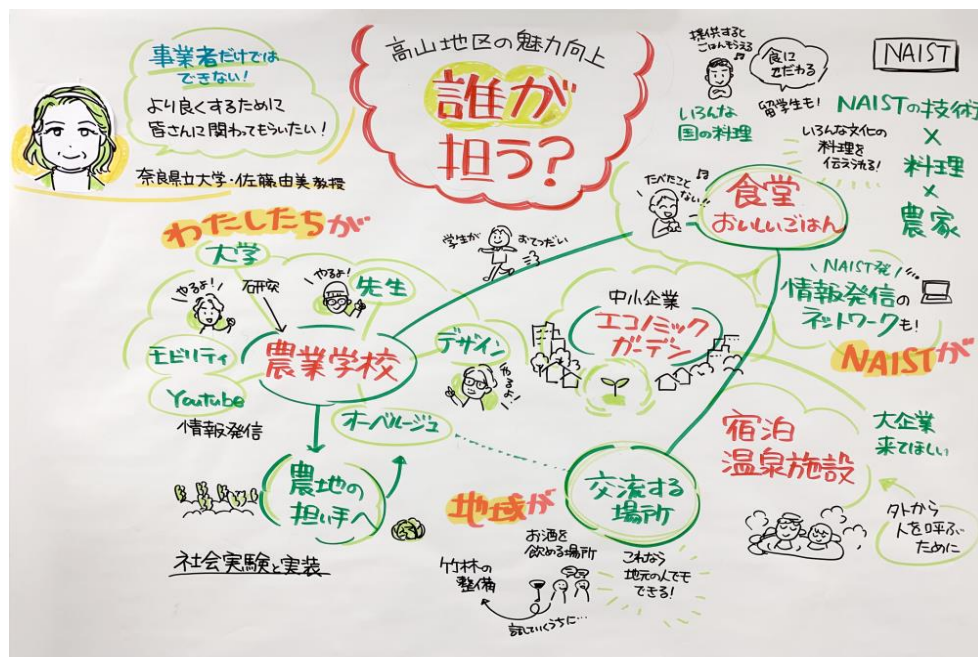
人が集まり交流を生む場所(飲食店や温泉、道の駅等)や楽しめる施設(自然体験施設等)は、新しく地域に訪れる人にとってメリットがある。

産業等の誘致(働く場づくり、交通アクセス向上)は、働く人や移住者にとってメリットがある。などの意見が出ました。

様々な意見がありましたが、そのほとんどが特定の人だけでなく、その地域に関わる人みんなにとってよりよい場所になるためにといった考え方による意見でした。



「場」「機能」は、誰がどのように担っていきますか？



農業学校や、語学や技術を教えるといった人を育てるという視点や、空き家を活用した食堂で色々な国の料理を提供したり、地域住民や学生の交流を促進できるイベントを開催するなど様々な文化に触れるという視点での考え方がありました。

これらはどれも、奈良先端大や地域の営農者、地域住民が担ってほしいという意見が上がりました。

他にも、移動手段の強化や企業誘致など参加者の背景によって様々な関わり方のアイデアを共有しました。

本日の総括コメント (アドバイザー 佐藤 由美 教授より)

誰にとってどんなメリットがあるかというテーマについて、自分にとってメリットがあるという意見よりも、産業のための空き家活用や、観光に来てもらえるための魅力ある施設整備、移住者が入りやすくなるための仕組みづくりなど、**地域全体が良くなるために**といった考え方が多かったことが印象的でした。誰がどのように関わるかというテーマでは、**自分たちができることを**探しているグループと、高山の外から来てもらう事業者に対して**自分たちが手伝えることを**探しているグループの2つのスタイルがありました。交流を生むための施設(食堂)や、人を育てる機能(農学校)、食文化PRの場など色々な意見が出ていましたが、それらはすべて**その人たちに任せると**いうことではなく、**自分たちが主体的に関わりをもち、実現していくことが大切**ではないでしょうか。これだけの規模の大きなエリアのまちづくりを実現するにはそうした地域の方の思いが必要です。次年度以降も、**皆がどのように「場」や「機能」に関わっていきたいか**ということを考えてこの取り組みを継続していけたらいいのではないのでしょうか。

今後は、今回のワークショップの内容を踏まえ、市民等に広く意見聴取を行い、「場」の創出に向けて具体的な検討を進めていきます。